令和７年度　学校マネジメント

Ⅰ　目指す姿

１　目指す学校像（基本理念）

・「知識と基盤となる高い学力とともに、前向きな姿勢や他者と協働しながら新しい価値を生み出す力をはぐくみ、新しい時代を各分野でリードする人材を育成する学校」

・校是　「遍く険しく、光輝く八稜星のごとく」

２　育みたい生徒像

社会をリードできる人材として、身につけたい資質能力

（１）自主・自律の精神（「自律した学習者」への転換）

（２）前向きな姿勢（挑戦心、意欲、レジリエンス（骨太さ、しなやかさ））

（３）広い視野と創造性（多様性の受容、グローバル・マインドとシチズンシップ）

（協働しながら新たな価値を生み出す力（調整力、独創性））

Ⅱ　現状と課題

（教育活動）

・本校は、１８９９年の創立以来、我が国及び国際社会において活躍する多くの人材を輩出しており、三重県を代表する進学校として、生徒、保護者及び県民から大きな期待が寄せられている。社会をリードできる人材として、身に付けたい資質能力を学校全体で共有し、これまで以上に学年系統的・教科横断的な教育活動を確立し、「高い学力」、「前向きな姿勢」、「他者と協働しながら新しい価値を生み出す力」を育成し、卒業後も自律した学習者として学び続け、何事にも前向きに取り組み姿勢をはぐくみ、広い視野と創造性をもって社会で活躍できる人材を育成できる学習指導を実践する。

（学校運営等）

・生徒の視点に立ち、生徒一人ひとりの個性と生きる力（確かな学力、豊かな人間性、健やかな身体）の育成を図るとともに、多様で複雑化する生徒が抱える悩みや課題について、早期発見・早期対応、情報共有し、個別最適な学習への対応ができる職場環境を構築する。

Ⅲ　中長期的な重点目標

１　スーパーグローバルハイスクール（ＳＧＨ）事業の成果を継承しながら、スーパーサイエンスハイスクール（ＳＳＨ）事業第Ⅲ期（令和５～９年度）等を活用し、「自律した学習者」、新たな価値を創造し国際舞台で活躍する科学技術人材を育成するとともに、すべての教育活動を通して人間力を育成し、新しい社会の地平を切り拓くリーダーとしての資質を育む学校としての役割を果たす。

２　生徒が学力を高めることができる指導を充実するために、教職員は、授業第一の姿勢、科学的論理的思考力育成、グローバル教育を意識しながら、探究的で、主体的・対話的な学びについて研修を深め、本校独自の学習指導方法を実践するとともに、ＩＣＴの活用など授業の改善に努め、授業時間の確保を進め、学力の伸長に努める。

3　授業、部活動、学校行事など、すべての教育活動を通して「人間力」を育成するとともに、生徒一人ひとりの個性の伸長を図りながら、同時に市民性・社会性（シチズンシップ）を育むとともに、本校に集うすべての人々が相互に尊敬し合い、認め合う心で交流する温かい組織風土を培う。

（学校運営等）

4　生徒の学習状況や生活実態及び学級の状態を把握することにより、学力の向上や、いじめ、不登校の未然防止や早期の対応を図り、生徒が、ここで学んでよかったと思う学校、学級集団づくりを進める。

5　教育計画や指導方法に関する実質的な議論が行えるように、各種委員会の充実や情報交換会、教員同士の授業見学等を充実して組織を活性化させ、教員の学習指導力と生徒指導力の両面を高める。また、働き方改革に取り組み、業務の精選・重点化を図るとともに教職員が相互に協力し合い助け合う学校組織文化を醸成する。

Ⅳ　本年度の行動計画

（教育活動）

スーパーグローバルハイスクール事業（ＳＧＨ事業）の成果を継承しながら、スーパーサイエンスハイスクール事業（ＳＳＨ事業）（令和５～９年度）等を活用して、自律した学習者、新たな価値を創造し国際舞台で活躍する科学技術人材を育成するとともに、人間力を育成し、新しい社会の地平を切り拓くリーダーとしての資質を育む高校としての役割を果たす。

1　生徒の創造的･論理的･協働的な思考力や判断力を文理問わず育成するために、学校設定科目「探究」において課題研究を実施します。一人１テーマでの発表は継承しつつ、昨年度、関連するテーマでチームを作り、協働の観点も取り入れたことによる探究活動においては、「科学の甲子園全国大会」「再生医療学会」「海ぽす甲子園」等多くの成果をもたらし、引き続き実施していく。また、テーマ決定・研究の実践・論文作成におけるさまざまな学習場面では、個別に指導・助言を行い、生徒同士での学びの場を設定する。

【活動指標】探究Ⅱにおいて、研究発表会、コンテスト、学会など関連するテーマでの協働的な取組み、年５グループ以上実施。

【成果指標】生徒アンケートにおける思考力向上の実感度 80%以上

2　生徒の国際感覚や多角的な視野、表現力を向上させるために、オーストラリア語学研修、英語開発プログラム、白熱英語講座、東大金曜講座、海外研修、国内研修等、さまざまな課外活動を実施する。

【成果指標】課外活動の満足度 90%以上

3　生徒各自の探究活動に加え、大学の他、地元グローバル企業等外部機関との連携を深め、それらの成果を発表し、SSH 事業の充実に努める。

【活動指標】

①地元グローバル企業との連携、年３社以上実施。

②研究発表会や学会等での成果発表、年１０回以上実施。

4　理系女子育成に力を入れて努める。
【活動指標】理系女子育成の取組、年１回以上実施。

生徒が学力を高めることができる指導を充実させるために、教職員は、探究的で、主体的・対話的な学びについて研修を深め、本校独自の学習指導方法を実践するとともに、ＩＣＴの活用など授業の改善に努める。また授業時間の確保に努め、学力の保証、充実、伸長に努める。

1　生徒が興味・関心を示し、内容を理解し学力が向上する授業を実践するために、「授業改善アンケート」を年２回実施する。「説明や発問等の仕方」「教材の準備や提示の仕方」「指導の工夫」等の視点別の評価をもとに改善することにより、授業の質の向上を図る。
【活動指標】授業改善アンケート年２回実施
【成果指標】視点別 12 項目平均点３以上（満点４点）

2　習熟度講座、少人数講座等の展開や、ICT・１人１台学習端末を有効活用した授業を実施することで、学習内容の理解や定着を図り、生徒の満足度を高める。また、定期試験、実力試験、実力養成試験を実施し、個人及び学年集団の学力を分析し、きめ細かい学習指導を行う。
【活動指標】　各試験の実施、補習授業等学力補充の実施、１人１台学習端末の活用研究、各学年の学力検討会議を年１０回以上実施

3　授業時間を確保するため、年間を通して授業実施時間を調整するとともに、自習時間は時間割変更して対応する。
【成果指標】自習時間数ゼロ

生徒一人ひとりの個性の伸長を図りながら、同時に市民性・社会性（シチズンシップ）を育むとともに、本校に集うすべての人々が相互に尊敬しあい認め合う心で交流する温かい組織風土を培う。

1　アンケートや面談を実施し、学級集団の状況や生徒一人ひとりの状況を把握し、課題の早期発見・早期対応に努め、親和的で自律した学級集団の育成に取り組む。
【活動指標】個人面談年間３回以上

2　人権教育推進計画を基盤にし、日々の授業や学校生活で実践を行う。また、人権学習を実施し、人権に対する意識を更に高める。
【活動指標】人権教育の観点を取り入れた授業、人権講話・人権学習の実施、各クラスの人権委員長・人権委員を主体にしたピンクシャツ運動など、主体的な人権啓発活動を行う。

3　リーダーシップマインドと礼節を身につけた生徒の育成を行う。ルールにただ従うことを是とするのではなく、ルールの目的や妥当性について生徒自身が考えるように促すことで、適切な社会性を身に

つけるとともに、自分の価値観や生き方を発見できるよう支援する。
【活動指標】礼節やルール、生き方について考える機会となる講話や生徒支援だより発行を合わせて年間５回以上実施。

4　学校を安全・安心な場所とするため、生徒が主体的に集団に参画できるようなコミュニケーション能力向上や、環境美化の意識向上を促していく。
【活動指標】生徒を主体とした挨拶推進の取り組みや話し合いを年間３回以上取り組む。

5　読書活動を推進することにより、生徒が視野を広げ、思考力・表現力を高められるよう支援する。また、「探究」など生徒のさまざまな学習活動に関連し、幅広い資料提供に努める。
【活動指標】読書活動推進のための情報発信回数：１２回以上

生徒の学習状況や生活実態及び学級の状態を把握することにより、学力の向上や、いじめ、不登校の未然防止や早期の対応を図り、生徒が、ここで学んでよかったと思う学校、学級集団づくりを進める。

1　教科の指導計画や教材の共有化等を図り、教科内の情報交換を進める。また各教科、科目指導計画の進捗状況を確認し、学習指導の品質を整え、充実を図る。また、質、量の両面から生徒の実態に合った課題が提供されているかについて必要に応じて聞き取り、定期的に検証し、適切な家庭学習が行われているかを把握することで、生徒の学力向上に繋げる。
【活動指標】　教科会を教科ごとに１０回以上実施し、進捗状況を確認。全教員が他の教員の授業に年間１回以上参加してコメント提供。

2　生徒一人ひとりの心身の不調の早期発見に努め、担任・学年団や、必要に応じて関係機関と連携して、生徒の心のケアに努める。
【活動指標】　生徒の心身の健康の保持増進に関する個別対応の充実、スクールカウンセラー等の校内外の専門家、教育相談担当者、養護教諭と学年によるケース会議（※注）の実施。
（※注）ケース会議とは、チームで子供を支える教育相談及び特別支援教育の会議
【成果指標】　長期欠席生徒数が前年度より減少。

3　保護者、生徒の希望を把握した上で進路検討会議を実施し、個に応じた進路指導を組織的に行い、生徒の学力、適性に合った進路を実現する。また、保護者に最新の進路情報を提供するとともに、受験への支援や理解を図る。
【活動指標】保護者面談、生徒個別面談、進路検討会議の実施
【成果指標】３学年１１月時点での第１志望校への出願率 70%以上

4　保護者や地域へ学校生活の情報発信を積極的にすすめる。

【活動指標】　学校Ｗｅｂサイト（ホームページ）の充実や ICT を利用した情報伝達を行う。
すぐーるの有効活用を行う。

5　PTA の支援のもと、土曜学習会や課外授業（夏期講座含む）を充実させ、個に応じた指導を実践する。
【活動指標】土曜学習会および課外授業の実施

教育計画や指導方法に関する実質的な議論が行えるように、各種委員会の充実や情報交換会、教員同士の授業見学等を充実して組織を活性化させ、教員の学習指導力と生徒指導力の両面を高める。また、働き方改革にとりくみ、教員定数の減少に対応しながら、業務の精選・重点化を図るとともに教職員が相互に協力し合い助け圧学校組織文化を醸成する。

1　進路主任を座長とする「戦略会議」（校長直轄）を定期的に開き、授業改善等に先進的な取組を行っている高校の実態の把握、指導方法の工夫、シラバス進捗状況のチェック、学年間情報連携等を行い、学力向上のための戦略と戦術を研究する。
【活動指標】　年間１０回以上実施
【成果指標】　生徒一人ひとりが学年始めより学年修了時実施の同種の校外模試等において成績向上

2　各種面談、アンケート調査、ケース会議などの情報をもとに、企画委員会や各種委員会を定期的に開催し情報共有を図るとともに、分掌ごとの役割分担や部活動の在り方等を含め、継続した学校経営改善に取り組む。
【活動指標】随時の情報交換や中間評価を実施し、改善点等を明確にし、共有し改善策等を検討する。

3　「「学校信頼向上委員会」を設置し、学校の直面する課題を明らかにし、改善に向けた取組を進める。その際には PTA 役員等の意見も、積極的に取り入れ、「行動計画」に反映する。
【活動指標】委員会実施回数　年間４回（４月・８月・１０月・２月）

4 学校Ｗｅｂサイト（ホームページ）の更新
【活動指標】更新回数　１００回
5 外部への発信
【活動指標】報道への情報提供　年間１０回以上

6　働き方改革に取り組み、「学校信頼向上委員会」での協議を参考にしながら、業務の精選・重点化を図るとともに、教職員が相互に協力し、助け合う学校組織文化を醸成する。
【活動指標】
・定時退校日を月１回以上実施、定時退校できる職員の割合９０％以上
・部活動休養日を週１日以上設定、予定通り休養日を設定し実施した部活動の割合１００％

・放課後開催の会議時間を短縮し、６０分以内に終了する会議の割合９０％以上

【成果指標】

・1 人当たり月平均時間外労働時間 30 時間以下

・1 人当たり年間休暇取得日数 19 日以上

・年 360 時間を超える時間外労働者 0 人

・月 45 時間を超える時間外労働者のべ人数 0 人